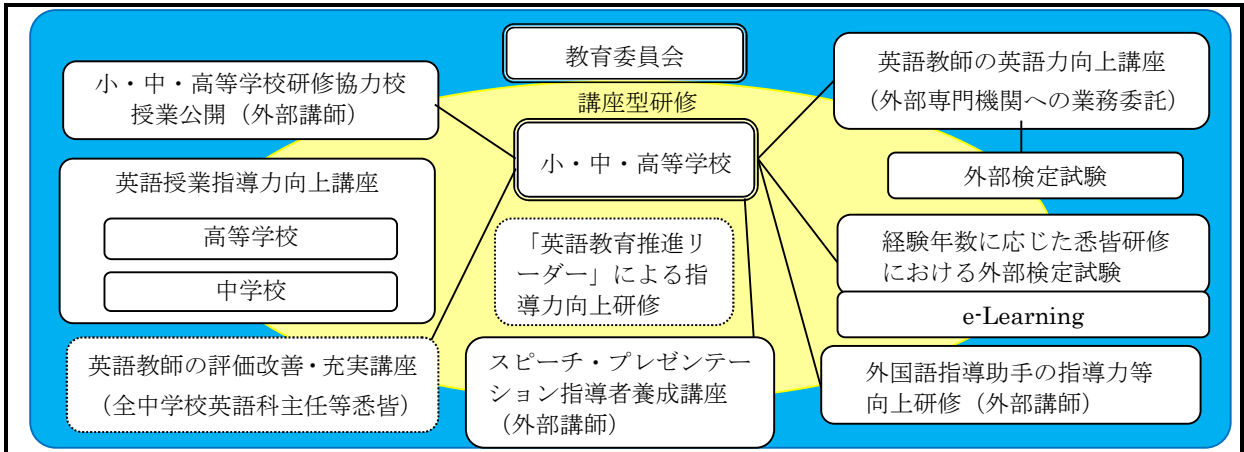


岐阜県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

【目標及び数値指標】・別紙 目標管理書のとおり

【H28 現状】・高等学校 77% ・中学校 23%

- 【方 策】・英語担当教員の英語力の向上を目的とした研修を実施し、研修成果を測るため、研修最終日に外部検定試験を実施する。
- ・経験年数に応じた悉皆研修に外部検定試験受験を位置付ける。
 - ・悉皆研修で外部検定試験を受験する対象者に e-Learning による学習サポートを提供し、継続的な英語学習による英語力の向上を目指す。

②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

【目標及び数値指標】・別紙 目標管理書のとおり

【H28 現状】・高等学校 41% ・中学校 36%

- 【方 策】・4技能を統合したパフォーマンステスト等を単元に位置付けることで、単元の各単位時間の役割を明確にし、コミュニケーション活動の機会を増やす。
- ・年度ごとの達成値を把握し、成果のある取組の事例を取り上げ、岐阜県英語教育イノベーション戦略事業の英語拠点校区事業において、県内小学校11校、中学校6校、高等学校6校を実践拠点校として定め（以下、「拠点校」とする）、連絡協議会等で紹介し指導に役立てるよう助言する。
 - ・外部検定試験を活用し成果を検証する。

③「Can-Doリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

【目標及び数値指標】・別紙 目標管理書のとおり

【H28 現状】・高等学校 設定 100% 公表 32% 達成状況の把握 64%

・中学校 設定 100% 公表 17% 達成状況の把握 82%

- 【方 策】・高等学校については、全ての学校に「Can-Doリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標を平成30年度には公表するよう求める。
- ・各校種の拠点校（研修協力校）において、学年の目標を生かした授業改善及び学年の目標の達成状況を把握する評価の充実・改善について実践する。
 - ・全中学校英語科主任等悉皆の研修において、「Can-Doリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標、パフォーマンステスト及び定期テストの適切な作成方法や実施方法などの学習到達目標の達成状況を把握する具体的方途について

周知する。

④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【目標及び数値指標】・別紙 目標管理書のとおり

【H28 現状】・高等学校 77% ・中学校 77%

- 【方 策】・拠点校（研修協力校）において、授業を英語で行い、授業を実際のコミュニケーションの場面とする実践を継続する。
- ・県独自で作成した「ふるさと英語教材」（小・中学生用）の活用を広く促す。
 - ・英語教育推進リーダーによる指導力向上研修をはじめとする講座型研修において、4技能に係る言語活動について効果的な指導の在り方について理解を深める。

⑤「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

【目標及び数値指標】・別紙 目標管理書のとおり

【H28 現状】・高等学校

スピーキングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ 2.0回
	コミュニケーション英語Ⅱ 1.5回
	コミュニケーション英語Ⅲ 0.4回
	英語表現Ⅰ 1.2回
	英語表現Ⅱ 0.8回

ライティングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ 0.6回
	コミュニケーション英語Ⅱ 0.7回
	コミュニケーション英語Ⅲ 0.5回
	英語表現Ⅰ 1.5回
	英語表現Ⅱ 1.9回

- ・中学校

スピーキングテスト	2.8回
ライティングテスト	1.8回

- 【方 策】・拠点校（研修協力校）において、学年の目標を生かした授業改善及び学年の目標の達成状況を把握する評価の充実・改善について実践する。
- ・英語教育推進リーダーによる指導力向上研修をはじめとする講座型研修において、4技能に係る言語活動について効果的な指導の在り方について理解を深める。
 - ・全中学校英語科主任等皆の研修において、パフォーマンステスト及び定期テストの適切な作成方法や実施方法などの学習到達目標の達成状況を把握する具体的方途について周知する。

⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

【目標及び数値指標】・別紙 目標管理書のとおり

【H28 現状】・高等学校 73% ・中学校 78%

- 【方 策】・拠点校（研修協力校）において、域内の学校に対して研修会を実施し、域内の英語担当教員の参加を求める。
- ・拠点校において、授業を英語で行い、授業を実際のコミュニケーションの場面とする実践を継続する。
 - ・「英語教育推進リーダー」による指導力向上研修をはじめとする講座型研修をとおして、言語活動における教室英語とその活用方法について理解を深める。
 - ・全中学校英語科主任等皆の研修を実施し、単元の各単位時間の役割を明確にし、コミュニケーション活動の機会を増やすことで、状況に応じた英語表現を英語担当教員が使用する方途について周知する。

⑦域内小学校における、相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

- ・目標設定はしない

⑧研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

【目標及び数値指標】・別紙 目標管理書のとおり

【H28 現状】・高等学校 研修回数 38 回 受講者数 393 人
 ・中学校 研修回数 52 回 受講者数 745 人
 ・小学校 研修回数 25 回 受講者数 274 人

【方 策】・派遣型研修及び講座型研修の趣旨、内容等について各種会議等において周知を図り、参加を促す。
 ・派遣型研修については報告会や還元研修を実施し、その成果を明確に捉える。
 ・講座型研修については各研修後の「PDCAシート」（県教育委員会の授業改善策の一環）を活用し、研修後の成果をより明確に捉える。さらに、研修内容をどのように実践に活用したかについても、アンケートを通して捉える。

(3) 研修の体系と内容の具体

研 修 名：	英語教師の英語力向上講座
研修対象者：	中学校・高等学校英語担当教員
研 修 目 的：	英語担当教員の英語力の向上
内 容：	外部検定試験における指標達成のための講座
受講予定者：	30 名
実 施 期 間：	3 日間
英語評価テスト：	参加者の英語力を測る外部検定試験を実施する。
研修の評価方法：	外部検定試験 実施後に終了後アンケート（研修内容についてのアンケート）を実施し、さらに年度末までに還元度アンケート（研修を各勤務校でどのように実践したかを報告するためのアンケート）を実施する。終了後アンケートに基づき、PDCAサイクルで次年度講座構築に向け準備する。
外部専門機関との関わり：	外部専門機関に委託
研 修 名：	英語授業指導力向上講座
研修対象者：	中学校・高等学校英語担当教員
研 修 目 的：	英語担当教員の授業指導力の向上
内 容：	授業参観、授業研究、実践交流
受講予定者：	20 名（×2回）
英語評価テスト：	実施しない。（指導力向上に特化した研修講座内容であるため。）
研修の評価方法：	実施後に終了後アンケート（研修内容についてのアンケート）を実施し、さらに年度末までに還元度アンケート（研修を各勤務校でどのように実践したかを報告するためのアンケート）を実施する。終了後アンケートに基づき、PDCAサイクルで次年度講座構築に向け準備する。
外部専門機関との関わり：	なし
研 修 名：	スピーチ・プレゼンテーション指導者養成講座
研修対象者：	中学校・高等学校英語担当教員
研 修 目 的：	英語担当教員のスピーチ指導力・プレゼンテーション指導力の向上
内 容：	外部講師（ALT）による講義
受講予定者：	10 名（×2回）
英語評価テスト：	実施しない。（指導力向上に特化した研修講座内容であるため。）
研修の評価方法：	実施後に終了後アンケート（研修内容についてのアンケート）を実施し、さらに

年度末までに還元度アンケート（研修を各勤務校でどのように実践したかを報告するためのアンケート）を実施する。終了後アンケートに基づき、PDCAサイクルで次年度講座構築に向け準備する。

外部専門機関との関わり： なし

研 修 名： 外国語指導助手の指導力等向上研修

研修対象者： 県内 JET プログラム参加外国語指導助手、日本人英語担当教員

研 修 目 的： 外国語指導助手の指導力向上

内 容： 外部講師による講義、指導法の研究

受講予定者： 外国語指導助手約 60 名（× 2 回）、日本人英語担当教員約 60 名（× 1 回）

英語評価テスト： 実施しない。（外国語指導助手を対象とした研修であるため。）

研修の評価方法： 実施後に終了後アンケート（研修内容についてのアンケート）を実施し、さらに還元度アンケート（研修を各勤務校でどのように実践したかを報告するためのアンケート）を実施する。終了後アンケートに基づき、PDCAサイクルで次年度講座構築に向け準備する。

外部専門機関との関わり： 大学教授等を講師として招聘

研 修 名： 公開授業を通じた指導力向上研修

研修対象者： 小学校外国語担当教員・中学校及び高等学校英語担当教員

会 場： 各研修協力校

研 修 目 的： 外国語担当教員、中学校及び高等学校英語担当教員の指導力の向上

内 容： 授業参観、授業研究

受講予定者： 20 名（× 2 回 小中学校の研修協力校は同時開催）

英語評価テスト： 実施しない。（指導力向上に特化した研修講座内容であるため。）

研修の評価方法： 実施後に終了後アンケート（研修内容についてのアンケート）を実施し、さらに年度末までに還元度アンケート（研修を各勤務校でどのように実践したかを報告するためのアンケート）を実施する。終了後アンケートに基づき、PDCAサイクルで次年度講座構築に向け準備する。

外部専門機関との関わり： 大学教授を事前の校内研究指導者として招聘

研 修 名： 経験年数（中学校）に応じた悉皆研修における外部検定試験

研修対象者： 中学校 4 年目研修・ 6 年目研修・ 1 2 年目研修対象英語担当教員

研 修 目 的： 中学校英語担当教員の英語力の向上

内 容： e-Learning による継続的な英語学習

研修における外部検定試験受験

受講予定者： 4 年研修対象者・ 6 年研修対象者・ 1 2 年研対象者

英語評価テスト： e-Learning による学習をした後、研修対象者の英語力を測る外部検定試験を実施する。

研修の評価方法： 外部検定試験

秋に実施される本番に向けて、模擬試験を e-Learning で行う。その後、学習遅延者等に対して学習アドバイザーによるアドバイスが行われ、受講者は、継続的で効果的な英語学習を行う。学習アドバイザーによる学習成果については、委託業者より報告を受ける。

外部専門機関との関わり： e-Learning を外部専門機関に委託

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	英語スピーチ指導者養成講座 英語プレゼンテーション指導者養成講座 英語授業指導力向上講座（中学校）	外部講師（ALT） 外部講師（ALT） 教科担当主事
7月	英語教師の英語力向上講座（1） 公開授業を通じた指導力向上研修（1）	委託機関 研修協力校
8月	英語教師の英語力向上講座（2）	委託機関
9月	英語授業指導力向上講座（高校）	教科担当主事
10月	外国語指導助手の指導力等向上研修（1） 経験年数に応じた悉皆研修における外部検定試験（1） 経験年数に応じた悉皆研修における外部検定試験（2） 経験年数に応じた悉皆研修における外部検定試験（3）	大学教授等 委託機関 委託機関 委託機関
11月	公開授業を通じた指導力向上研修（2） 経験年数に応じた悉皆研修における外部検定試験（4） 経験年数に応じた悉皆研修における外部検定試験（5） 経験年数に応じた悉皆研修における外部検定試験（6） 経験年数に応じた悉皆研修における外部検定試験（7）	研修協力校 委託機関 委託機関 委託機関 委託機関
12月		
1月	外国語指導助手の指導力等向上研修（2）	外部専門機関 大学教授
2月	公開授業を通じた指導力向上研修（3）	研修協力校
3月		
【その他の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・「英語教育推進リーダー」による指導力向上研修（小学校・中学校・高等学校） ・独教教職員等海外派遣研修（独立行政法人教員研修センター） ・国外大学プログラム研修（外部専門機関） ・英語教師の評価改善・充実講座（全中学校英語科主任悉皆） 		

- 中学生英語弁論大会（地区大会・県大会）
- 高校生英語スピーチコンテスト（地区大会・県大会）
- 高校生英語プレゼンテーション大会（県大会）
- 高校生英語キャンプ
- グローバル人材育成を目指した高校英語教育改善フォーラム
- 英語科担当者会議

